

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400540		
法人名	有限会社 恵成		
事業所名	グループホーム 蕤賓荘		
所在地	〒037-0514 青森県北津軽郡中泊町大字小泊字浜野61-1		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域で穏やかに暮らし、やすらぎを得ていただけるよう支援します。家族の方以外の方ともなじみの関係が続くように外出支援をしたり、訪問しやすいホーム作りをしている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年10月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域柄、入居者や職員が昔からの顔馴染みで、地域とのつながりが強く、職員の家族の様な関係性が構築され、笑顔が飛び交い、アットホームで柔らかな雰囲気のグループホームである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム名称の由来を理念として捉え施設の中でその人らしい生活を支援できるように話し合い実践につなげている。	創立当初に作成した『柔らかにお客様をもてなし安らぎをあたえる』を理念に住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう、施設長・職員間で話し合い理念達成に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年暮れから移動販売が来てくれるようになった。ご近所の方にも声がけして、来て貰っている。夏祭りの踊り手、炊き出し訓練ボランティア等に協力している。	コロナ禍で地域へ出向くことが難しくなっている中、地域と交流を絶やさぬようグループホームが働きかけを行っている。また、運営推進会議の情報から移動販売が定期的に来られ、入居者の好評を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	避難訓練時には、近隣の方々に協力してもらっていて、災害発生時の協力もお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、待機者状況、研修、行事報告をしている。委員の意見から外部講師を招いて、スタッフ、家族、推進委員で研修を行った。	コロナ禍で会議は休止しているが、地域・家族代表や民生委員等参加されている。移動販売等の情報を得て運営に役立てており、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の時に意見を伺ったり、必要時は役場に出向いて相談するなどしている。	役場福祉課や地域包括支援センターなど連絡を密に医療面や運営に関してアドバイスを頂いたり情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーチャイムがついていて、鍵を掛けないようにしている。帰宅願望がある方で、外に出て行く方には、落ち着くまで、同行している。身体拘束は、おこなっていない。	身体拘束の芽を出さぬよう、日頃のケアで感じた気づきを職員会議で話し合い、未然に防ぐよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する研修で学んできた事を再度内部研修で学習し、理解を深め虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	必要時には、アドバイスできるように研修に参加している。又、包括支援センターと連携をとりながら活用できるように支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて退所を含めた対応可能な点について十分な説明を行い納得を得た上で契約している。又、改定時には、その都度説明し、同意をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に伺うように心がけている。要望や意見は推進会議や職員会議で話し合い、運営に反映させるようにしている。	電話連絡や面会時で要望を伺い、意見を運営推進会議でも議題として挙げ運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月おこなう職員会議は全員が参加できる時間帯におこなっていて、意見や要望などは全員で検討し、できうところは反映させている。又日常的に意見をいえる状況である。	意見や提案を職員会議以外でも管理者に話しやすい環境作りや有給取得しやすいよう職場環境の改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員の増員で急な休みも対応できている。資格手当を就業規則に明記したり、特定処遇改善加算、処遇改善加算を活用して基本給の引き上げもおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップのために年2回以上の外部研修は必須である。各自の力量を把握して、資格取得の研修にも出席させるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で本年度はできないが、中泊町の全グループホームで定期的に意見交換をしながら、共にサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談でご本人の不安や要望を傾聴し、誠実な対応と説明をする事で安心し、信頼していただける関係作りに努めている。利用前であってもいつでも相談に応じられることも伝えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談では困っている事や不安要望を伺い質問があれば納得行くように説明している。利用前であっても相談に応じることも伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応困難な場合が発生したときは、本人家族の理解を得た上で他のサービス利用につなげる対応をしている。サービス開始前の担当ケアマネに同席をしてもらう事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	山菜の下ごしらえや洗濯たたみ等をしていただいたり、得意なことを活かしながら、共に寄り添う関係を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常に変化があれば連絡し、2ヶ月に1回のおたよりは、希望があれば、町外、県外に住んでいる家族(子供達)にも送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人と顔をあわせるようなところ(町内行事など)には積極的に出かけるように支援している。又夫婦が別々のホームに入所している方は定期的に会う支援をおこなっている。	感染対策を行いガラス越しではあるが面会できるよう支援している。また、馴染みの美容院等に散歩がてら外出するなど馴染みの関係を途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人が交流を楽しめるよう、又トラブルにならないように席の工夫をしている。食事、おやつは全員で食べるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、いつでも相談に応じることを伝えており、必要時の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や動作、会話の中で引き出せるようにしている。困難な場合は、御家族から情報を得てミーティングなどで検討するようにしている。	センター方式の活用で新規入居者に対しては本人家族や担当ケアマネジャーから情報を集めている。また、長く入居されている方に対しても日頃より会話等で思いや希望をくみ取れるよう努め、抽出した要望を職員会議で職員と意見交換を行い実践できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で本人、家族から聴き取るようにしている。聴き取った生活歴を本人とのコミュニケーションを摂るための手段として共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の活動内容、過ごし方を記録し申し送りする事で職員間で情報共有し現状の把握に努めている。毎日の排泄表、バイタル表、食事量などで健康状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の想いを反映させながら、問題点見つけたり、毎月カンファレンスを行い、現状に即した介護計画作成に努めている。	入居者や家族等から得た意見・要望をもとに職員会議の場で職員全員と話し合い作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務開始前の記録の確認、職員間の連絡帳の確認を徹底し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて面会時の送迎をおこなったり、家族と一緒に食事を希望する事もあり、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者、ホーム職員とかかわりのある方が毎月2組読み聞かせや、唄などの慰問に来てくれている又、地域の美容院の方も2ヶ月毎にボランティアでカットしてくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの医療機関を継続している。別の医療機関へ行かなければならないなど主治医が判断したときは、家族への説明も主治医がおこなってくれている。	入居後もかかりつけ医の変更なく、入居者・家族の希望の病院受診がされている。定期受診はグループホームで支援し、病状説明等は家族の協力を得て情報の共有を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の病院の看護婦さんには、必要時は、電話で相談したりしている。定期的に医療連携会議も開催されていて相談の場所になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換の為に入院中も面会するように努めているが、今はコロナ禍のため、病棟の看護師さんと電話交換となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはおこなっていないが、本人の状態から家族が希望した時は、主治医の先生、家族、ホームで話しあい、ホームでできる最大の支援をおこなうようにしている。	地域医療の協力を得て、本人や家族の意向を踏まえ、医師・家族・職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法、心肺蘇生法、緊急時通報訓練など全職員が受講していて、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、津波想定訓練、消火訓練をおこなっていて、火災、消火訓練時は、近隣の方、運営推進委員にも参加をお願いし、消防職員立会い、指導の下おこなっている。	年2回の夜間の火災を想定した訓練と、津波を想定した訓練を年1回行っている。地域住民と、避難場所・方法の確認も定期的に行っており、協力体制が築かれている。緊急時の備蓄も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常会話は方言でおこなっているので、声のトーン、雑な言葉掛けに注意するようにしている。高い声になった場合は、その場で他のスタッフが注意を促がしたりしている。	グループホーム内で権利擁護についての研修を定期的に行い、意識向上を目指し、日頃から職員間で注意しあって尊厳やプライバシーに配慮した声かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴、外出、行事参加等は個々の希望を聞いているが、自分の想いを表すことができない人にはこちらで希望を引き出す言葉掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先する事もあるが、ほぼ本人のペースで1日をすごしてもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回ホーム内でボランティア美容院の方にカットしてもらっている。男性の方のカットもできるのだが、希望の理容所へ行っている人もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、体調に合わせるなど柔軟に対応している。野菜の皮むきや、山菜の下ごしらえなどは入居者の皆さんのほうが手早いです。	地域住民からの食材のお裾分けを献立に取り入れ、食材の下ごしらえは入居者と一緒に行うなど、楽しみながら食事ができる支援をしている。また、入居者の好みも伺い、献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に状態に応じてご飯の量を減らしたり、嚥下状態に応じて、刻み食や、ミキサー食、とろみなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ずこえがけして、口腔ケアをおこなっている。自立の人でも、義歯の方には必ず洗い残しがないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自ら訴えられない人も、排泄パターンを把握してトイレでの排泄を促がしている。	身体状況によってトイレでの排泄ができない方におむつを使用しているが、排泄表での排泄パターンを把握し、その都度声掛けを行い可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜が多い食事を取り入れている。水分摂取量の把握、定時のおやつはヨーグルトを取り入れ便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ホームで決まっている個々の入浴日以外でも希望があれば、入浴してもらっている。	入浴は週2回としているが、希望にあわせ対応できる体制が整えられている。また、入浴実施日が週4日であることから入浴日の変更も可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促がす支援をしているが、夜は眠くなるまでホールでテレビを見たり、夜勤者が会話するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容は1覧を提示しているので、疑問がある時は確認している。誤薬事故がないようにチェック体制を強化している。症状の変化を観察し必要時は、主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事を見つけ自信につながるように支援している。コーヒーを好む方には飲んでいただいている。ドライブで外に出たり、慰問などで気分転換をおこなっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、地域行事、ホーム行事は、車椅子の方も出かけられるように支援している。	希望があれば、急な外出にも対応できるようにしている。また、気分転換に日頃よりグループホーム周辺の散歩を行い、入居者本位に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かっている人、自分で所持している人など本人や家族の希望でまちまちであるが、どちらも、必要時には使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不穏になった時、電話の依頼があった時は電話している。定期的に電話をくれたり、絵葉書のおたよりをくれる家族もいる。2ヶ月に1回の蕤賓荘便りの中に完成した塗り絵を入れたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの畳敷きの場所にソファがあって、そこでテレビをみたり会話されている。季節が変わるごとに、季節に合わせて、絵や展示物を飾っている。	共用空間はソファや椅子、畳敷きのスペースも有り自由に過ごされている。入居者が作成した物などをグループホーム内に展示されており、居心地の良い空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを持ち込んでいる方でも、気のあった方の居室でテレビをみたり、自分の居室から見える景色とは違う景色を見ながら会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んで使用している。奥さんの位牌を持ち込んでいる方には、毎朝ご飯のお供えの支援をしている。家族からの絵葉書や、孫の写真を見える場所に貼っている。	居室は窓も広く明るく、家族により入居者の馴染みの写真・日用品が置かれて、日常が本人のペースで居心地よく過ごせるように配慮されている。また、ベッドや家具の配置も本人や家族の希望に沿うように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	サイクリングマシンや、ウォーキングはできる人には、好きな時にやれるようにしている。一人ひとりのできる事を理解し、その人の力に応じた行動を見守り安全にすごしてもらうようにしている。		